

現基本構想における将来像の検討に係る背景について

将来像	要素	現基本構想策定時の検討内容	対応する政策
水と緑ゆたかな	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田園的ななごり ・ 河川で囲まれた地形 ・ 緑化可能な空地の存在 	<p>(状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緑：田園的ななごりや緑化可能な空地は、市街地化の進行により減少しており、自然的要素が失われてきている。緑が多いことが地域の特性といえた時期は去り、今は緑を多くすることで地域特性を醸成していく時期である。 ・ 水：本区は、東を江戸川、西を荒川、綾瀬川、北を大場川・小合溜に囲まれ、中央部に中川、新中川が流れる、水辺空間に恵まれた土地柄であり、その中で地域文化が育まれてきた。身近な場所に水辺が多く存在しており、区の貴重な自然資源として、ゆとりやうるおいのある空間の形成などへの活用が期待されている。 <p>(評価) 水や緑を本区に現にある特性と捉えるよりも、水や緑の個性的な活用を図り、本区の特性にしていけることが必要である。</p>	地域街づくり、交通、公園・水辺、環境、産業
心ふれあう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣人間のつながりの強さ ・ 人情味豊かな区民性 	<p>(状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下町人情豊かな区民性は、震災・戦争の被害で下町（墨田区・台東区など）から移住してきた人達と地元の人々によって培われたものであるが、高度経済成長期以後、毎年約1万人の人口が流入しながら本区の都市化が進行し、下町らしさが損なわれるなど、コミュニティの存立基盤が脆弱化した。 ・ 他区と比べれば、まだ人情味があるものの、「人情味・ふれあい」といった人的資源は、いわれるほどには区民の共通認識とはなっていない。 <p>(評価) 人情味豊かな区民性は、現にある資源というよりも、これから創りあげていくものであり、人情味豊かな気風を活かしたコミュニティの形成を図るべきである。</p>	健康、医療、衛生、高齢者福祉、障害者福祉、子ども・家庭支援、低所得者支援、地域福祉、地域街づくり、交通、環境、人権・平和・ユニバーサルデザイン、地域活動
住みよいまち	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職住近接の地域社会 ・ 都市的施設の整備による快適性向上への期待 	<p>(状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地価の高い区部において、職住近接を実現するには、収益が上げられかつ雇用吸収力の高い産業が求められる。 ・ 都心近接の地の利から住む場所としての魅力が増大しており、下水道等の都市基盤の整備が進み、住宅地としての機能性が増大しているが、商業面と文化面の遅れが住宅地としてのデメリットとなっている。 ・ 高齢化社会を活力ある社会とするためにも、年齢構成の不均衡を避けながら、多世代が居住できる地域社会が求められている。 <p>(評価) 全ての世代が東京という大都市に快適に居住することの満足感を享受できる地域社会を実現するため、産業の育成と生活のゆとりや楽しさを味わうことのできる場の整備に努めるべきである。</p>	地域街づくり、防災・生活安全、交通、公園・水辺、環境、産業、観光、文化・国際、学校教育、地域教育、区民学習、スポーツ

令和元年度 第1回葛飾区区民モニターアンケート調査報告書（抜粋）

Ⅲ 調査結果の詳細

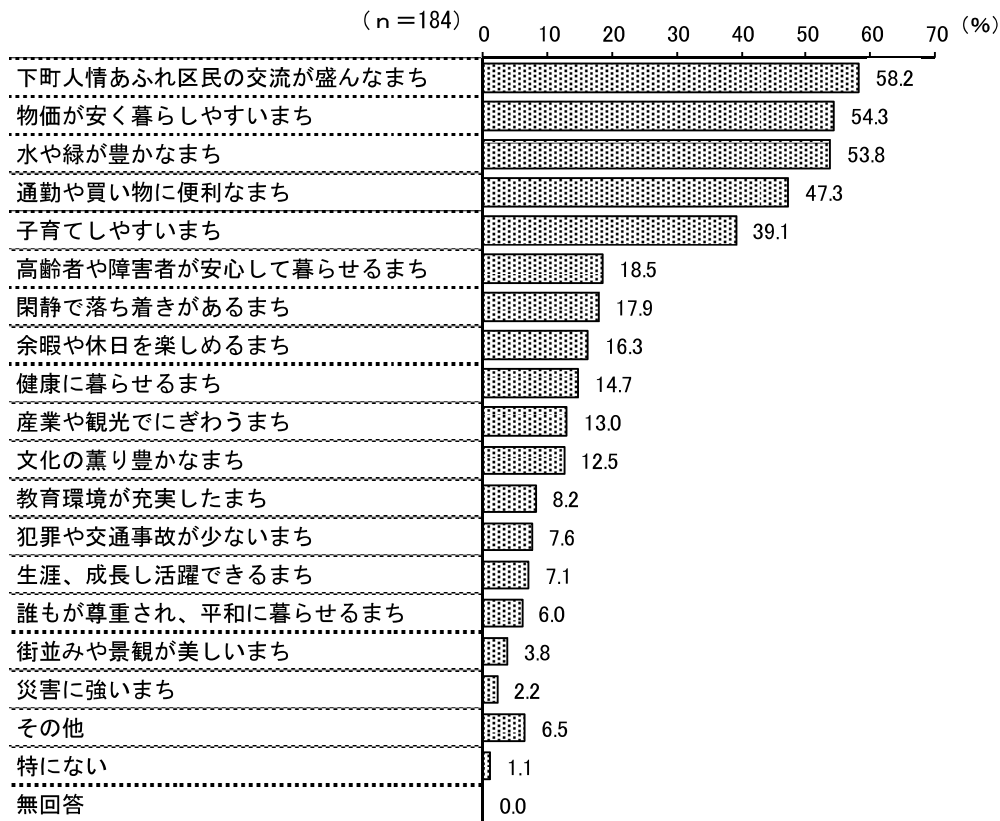
1. 葛飾区のまちのイメージについて

(1) 「現在の葛飾区」のイメージ

- 問1** (1)～(3)の質問について、＜選択肢＞からそれぞれ選んでください。
- (1) あなたにとって「現在の葛飾区」はどんなまちだと思いますか。当てはまるものを5つまで選んでください。

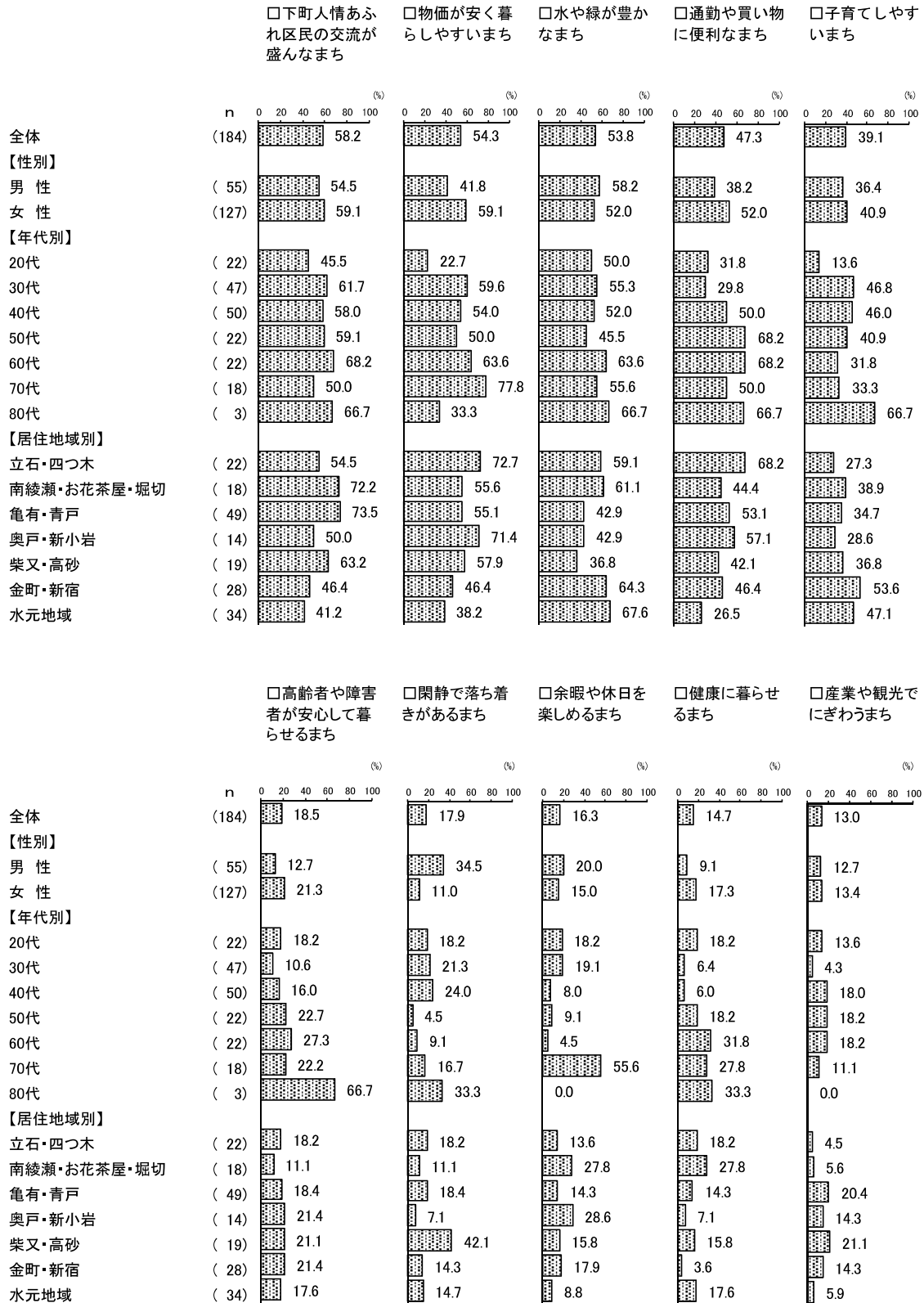
「現在の葛飾区」のイメージとしては、「下町人情あふれ区民の交流が盛んなまち」が58.2%で最も高く、次いで「物価が安く暮らしやすいまち」が54.3%、「水や緑が豊かなまち」が53.8%、「通勤や買い物に便利なまち」が47.3%、「子育てしやすいまち」が39.1%となっている。

図表-1 「現在の葛飾区」のイメージ（全体）



属性別でみると、「物価が安く暮らしやすいまち」は、女性で59.1%と高く、年代別では70代で77.8%と最も高くなっている。

図表-2 「現在の葛飾区」のイメージ
(性別・年代別・居住地域別—上位10項目)

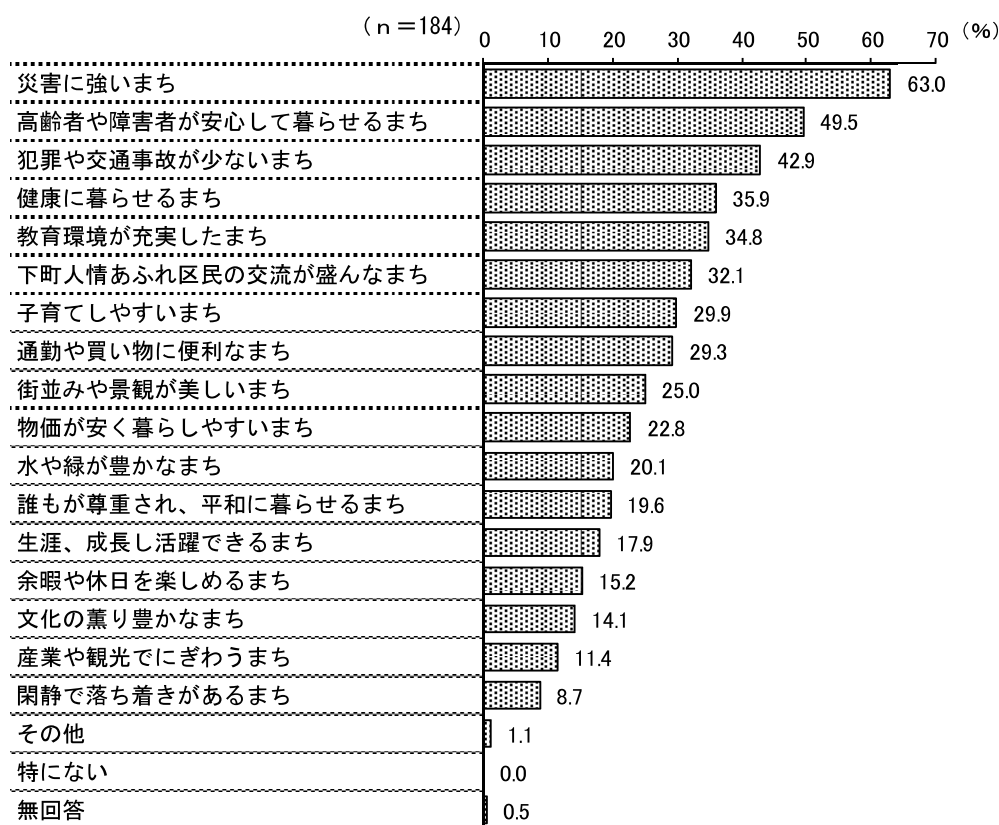


(2) 「20年後30年後の葛飾区がどんなまちであってほしいか」

- 問1** (1)～(3)の質問について、＜選択肢＞からそれぞれ選んでください。
 (2) あなたは、20年後、30年後の葛飾区がどんなまちであって欲しいと思いますか。
 当てはまるものを5つまで選んでください。

「20年後30年後の葛飾区がどんなまちであってほしいか」については、「災害に強いまち」が63.0%と最も高く、次いで、「高齢者や障害者が安心して暮らせるまち」が49.5%、「犯罪や交通事故が少ないまち」が42.9%、「健康に暮らせるまち」が35.9%となっている。

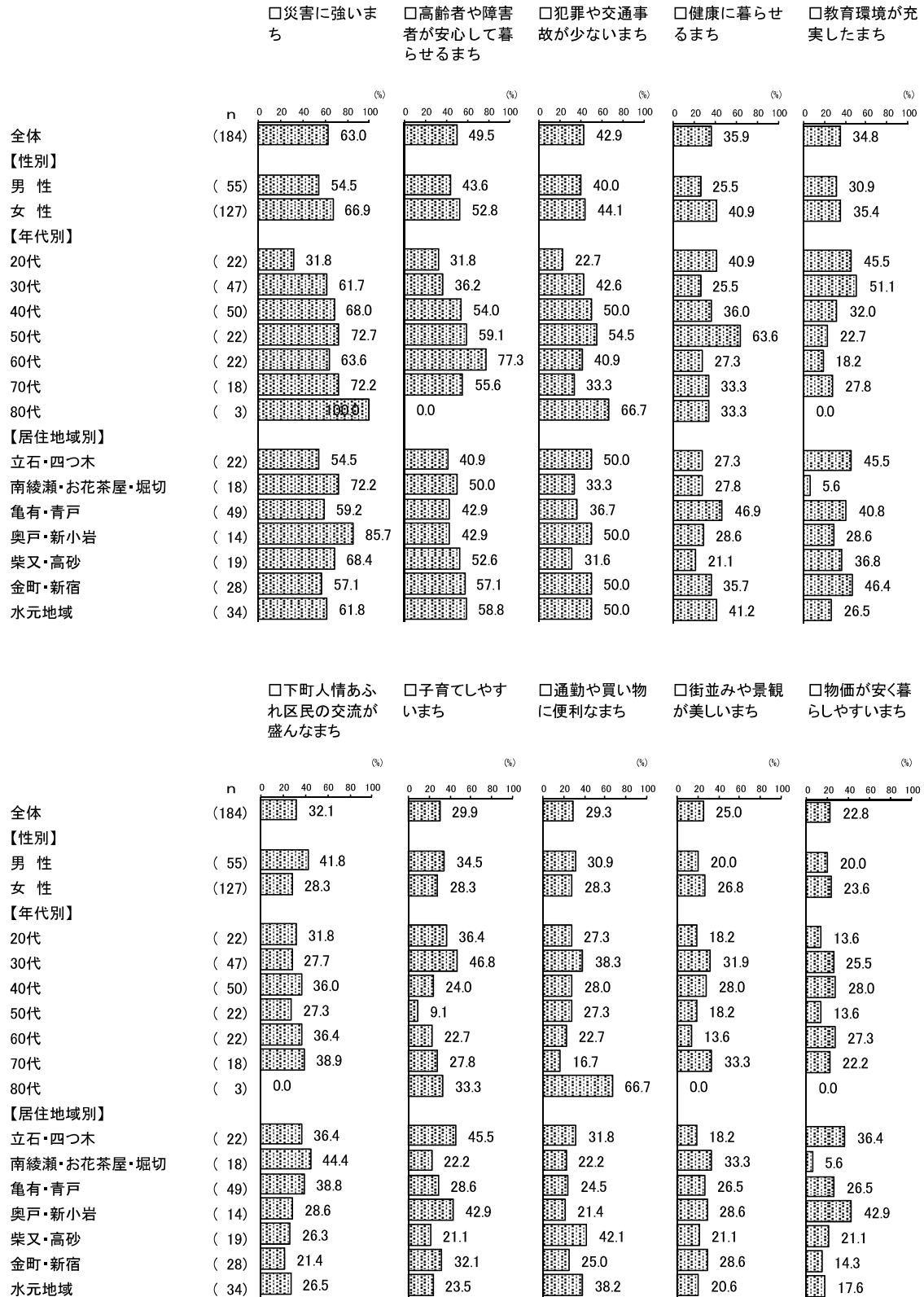
図表-3 「20年後30年後の葛飾区がどんなまちであってほしいか」(全体)



属性別で見ると、「災害に強いまち」は女性で 66.9%と高く、年代別では 50 代、70 代、80 代で 70%を超えて高くなっている。また、「教育環境が充実したまち」は 30 代で 51.1%と最も高くなっている。

図表-4 「20年後30年後の葛飾区がどんなまちであってほしいか」

(性別・年代別・居住地域別—上位10項目)

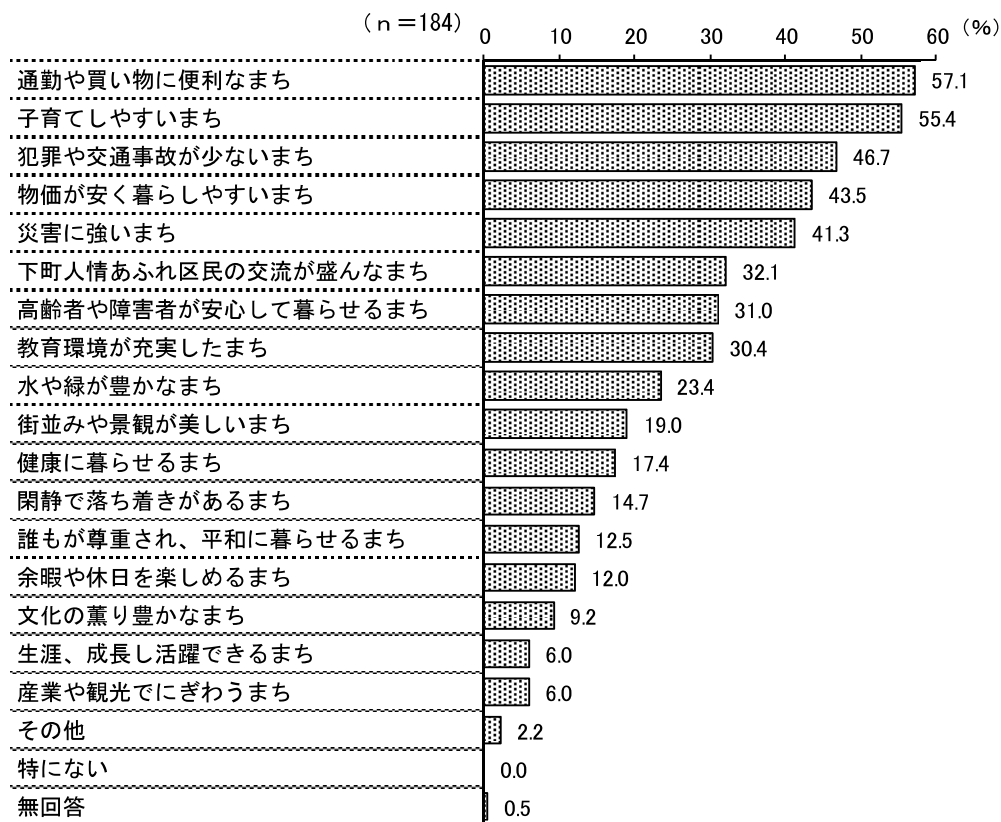


(3) 「葛飾区への転居を勧める場合にどんなまちであってほしいか」

問1 (1)～(3)の質問について、＜選択肢＞からそれぞれ選んでください。
 (3) 区外の親族や知人に対して、あなたが葛飾区への転居を勧めるとした場合、どんなまちであって欲しいと思いますか。当てはまるものを5つまで選んでください。

「葛飾区への転居を勧める場合にどんなまちであってほしいか」については、「通勤や買い物に便利なまち」が57.1%で最も高く、次いで「子育てしやすいまち」が55.4%、「犯罪や交通事故が少ないまち」が46.7%、「物価が安く暮らしやすいまち」が43.5%、「災害に強いまち」が41.3%となっている。

図表-5 「葛飾区への転居を勧める場合にどんなまちであってほしいか」(全体)



属性別でみると、「通勤や買い物に便利なまち」は30代で68.1%と最も高い。「子育てしやすいまち」は30代で78.7%と最も高くなっている。

図表一六 「葛飾区への転居を勧める場合にどんなまちであってほしいか」
(性別・年代別・居住地域別—上位10項目)

